

ワークショップNO.5

「地域を支える人材の発掘と育成・継承」



活動報告者 金崎隆一（琴平町社会福祉協議会）
真鍋陽子（415のわ）
大西良子（K³）

アドバイザー 原田正樹（日本福祉大学）
三ッ石行宏（高知大学）

地域担当者 琴平町社会福祉協議会

参加者状況



1. ワークショップ会場

琴平町公会堂

2. 参加者 54名
(「415のわ」及び「K³」のメンバーを含む)



琴平町公会堂

目 的

地域のボランティア団体等が抱える「次世代の担い手の不足」という課題にどのように取り組んでいくのか。琴平町が取り組んでいるプラットフォーム事業の実践と課題を共有し、地域の社会資源の発掘や活性化、新しい住民活動の開発や育成について、行政と協働で取り組む方策を考える。

展開方法



琴平町社協によるプラットフォームの説明
及び以下4つのワークショップを行う

【ワークショップ1】

実践者からの活動報告（「415のわ」及び「K³」）

【ワークショップ2】

2つの報告（【ワークショップ1】）を通しての課題整理

【ワークショップ3】

琴平町の社会資源分析

【ワークショップ4】

アクションプランを考える（琴平町で実践できるもの）



ワークショップの様子

琴平町におけるプラットフォーム事業



平成24年5月

「共助のプラットフォームづくり推進事業」全体会開催
参加者が持ち寄った地域課題をもとに、3つのワーキンググループが誕生する。

○安心・見守りWG

○環境美化WG

○子育て・次世代支援WG → 「415のわ」「K³」

「415のわ」の活動報告

「絵本文庫どり～む」(琴平町公会堂の一角を使用)

月1回の「おはなし会」(読み聞かせや工作など)etc

⇒「どり～む」の活動をとおして、他団体との交流など活動に広がりを見せている

「絵本文庫どり～む」開設の経緯

・「415のわ」の中での話し合い

⇒「未就園児とその親が気軽に集い絵本を読める場所づくり」の必要性

・「絵本スペースづくり」に向けた取り組み

⇒家庭で眠っている絵本の呼びかけ、カバー掛けetc…



「415のわ」

「K³」の活動報告



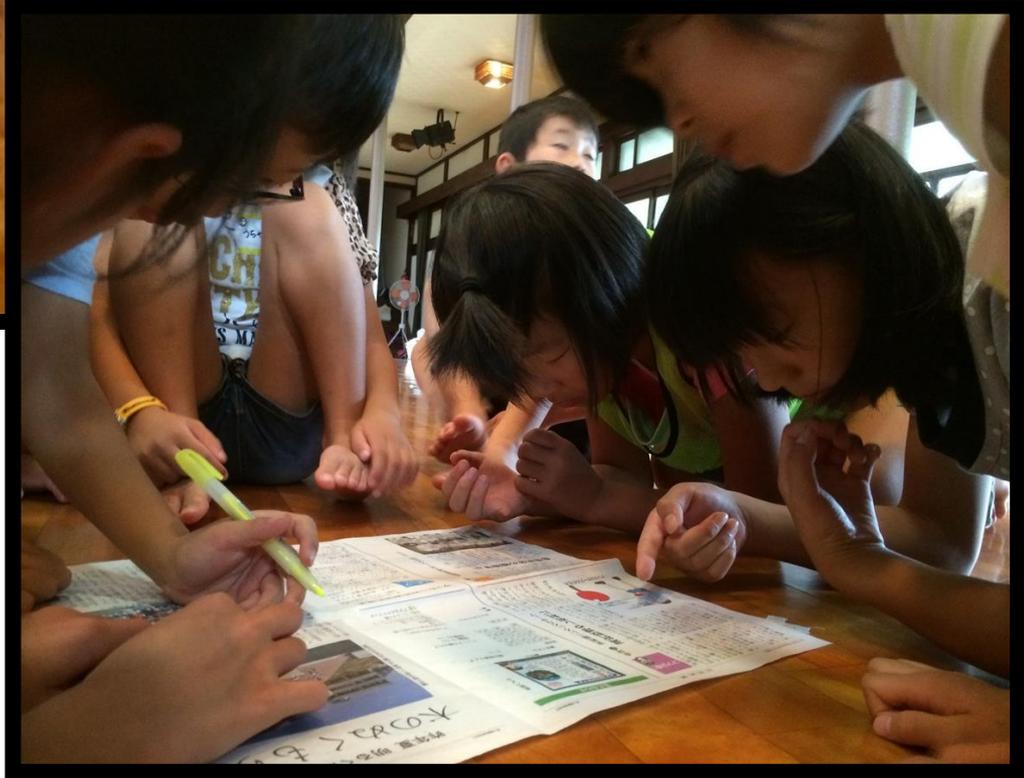
K³(子育てと教育を考えるグループ)

活動内容

- 第1弾 中学校の大掃除手伝い(平成25年12月)
- 第2弾 キッズことリンピック開催(平成26年8月)
- 第3弾 子育てマップの作成

活動の背景

- ・中学校の校舎の老朽化
- ・3つの小学校で全学年が1学級のみで、
学校間の交流がほとんどなかった etc...



「K³」

実践報告をうけての事例分析



「415のわ」「K3」の活動報告をきいて(各班による整理)

《参考点》 → 琴平町の地域福祉実践の強み(ストレングス)

- ・メンバーに行動力・実行力がある
- ・拠点(公会堂)で集い、活動ができる
- ・行政・社協等との連携がとれている etc…

《課題》 → 課題解決していくためのテーマ

- ・学校とのつながり不足
- ・メンバーの少なさ
- ・メンバー募集のPR不足 etc…

課題解決にむけた企画 ー目標ー



「地域」の中で顔を合わせ、気軽に声を掛け合えるように住民同士の「つながり」づくりを大切にしたい。だからこそ、いろいろな人が出会い、目標やテーマを共有できる場所（居場所）を作りたい。私たち一人ひとりが生きがいを持ち、楽しみながら活動を続けられるような環境を目指していこう。きっと、人が人を呼び、何か新しいことが起きることで「まち」は変わると信じている。（415のわ）

取り組んでみたい企画



【1グループ】メンバー不足の解消

今ある活動のPRや交流ができる企画

【2グループ】つながり・ひろがり(観光業との連携)

観光業の方々と地元の方々との接点づくり

【3グループ】人材の発掘

各世代のできることを持ち寄って、交流を通じたプログラム

【4グループ】公会堂を使った連携

「こんぴー祭り」の開催 各サロンの実践発表・交流

【5グループ】子どもの主体性

子どもたちの意見からはじまる成功体験

【6グループ】人材のひろがり

イベント開催(公会堂、伝統を意識、プロセス重視)

【7グループ】子ども中心のまちづくり

ギネスに挑戦 子どもたちのやる気と地域づくり

企画にあたって



- 設定した「課題」が解決できること
- 新しい人たちの出会いができること
- 今までやっていた人が元気になれること
- 琴平町の地域福祉につながること

琴平のつよみを活かす

参加者の市町村の事例も参考にする

結 果 (1)



各グループの検討結果

考 察



プラットフォーム

出会いの場、交流の場、創造の場

目的を達成したら「解散」する。

そのために目的の明確化、参加の限定化（可能なときに参加する）、達成の共有化（成果と評価）

プラットフォームには、コーディネーターが重要になる。

活動団体

継続的・持続的な活動を行うためには必要。

「組織化」の重要性

ただしマンネリ化したり、新しい人が入会しづらい。

考 察



琴平町で取り組んでいる「プラットフォーム」を活かす。

プラットフォームの展開

実行委員会形式。プロセスを大切にする。

プログラムの工夫をする。

プラットフォームへの動機づけ

新しい分野の人たちへの働きかけ

異なる活動者、異世代との交流

従来の活動者と新しい人々との出会い

子どもたちの主体的な参加

アンケートや住民の「声」(ニーズ)重視

結論・今後の展望



活動団体だけで新しい人材を発掘するのは難しい。地域福祉の推進の視点から、プラットフォームを展開し、そこから各活動団体へつなげていく「仕組み」を考える。ただし、単発のイベントだけにはしない。

各団体ごとにも、リフレクション(ふりかえり)を丁寧に行ったり、モチベーションを高めるなど運営の工夫も必要。ただし活動を継続していくことが、第一の目的になってしまってはいけない。必要なニーズに答えられているのかを常に問うことが大切かもしれない。